

開港前後の清水港

～河川港から海港へ
波止場から埠頭へ～

清水海上保安部長 田中 裕二
清水 港 長

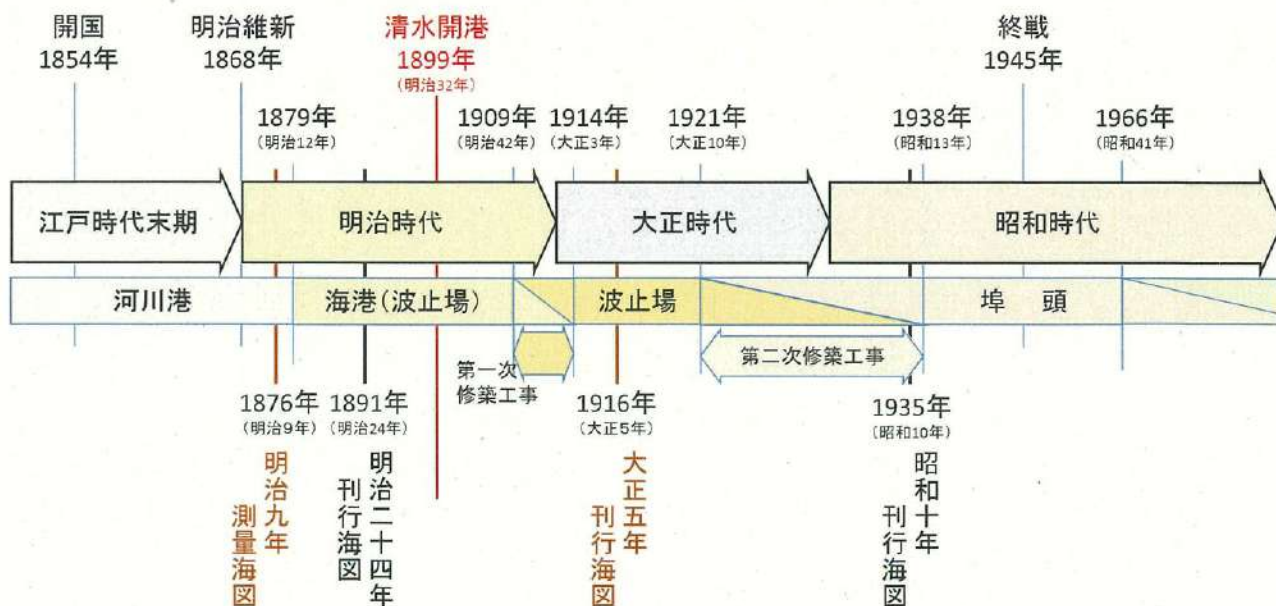
JCG 海上保安庁
JAPAN COAST GUARD

令和2年2月1日



JCG 海上保安庁

本日お話しする時代

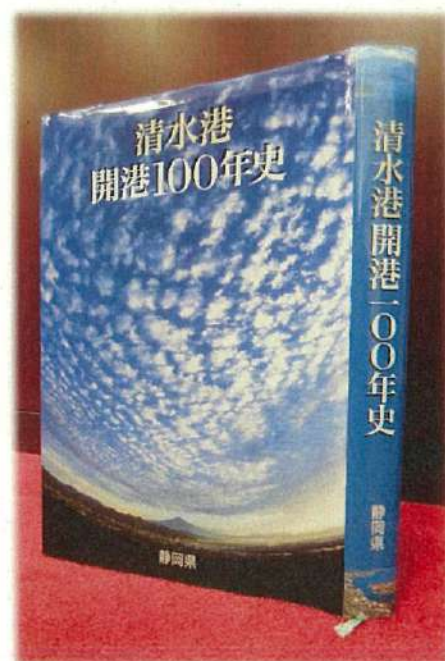


海図とは？

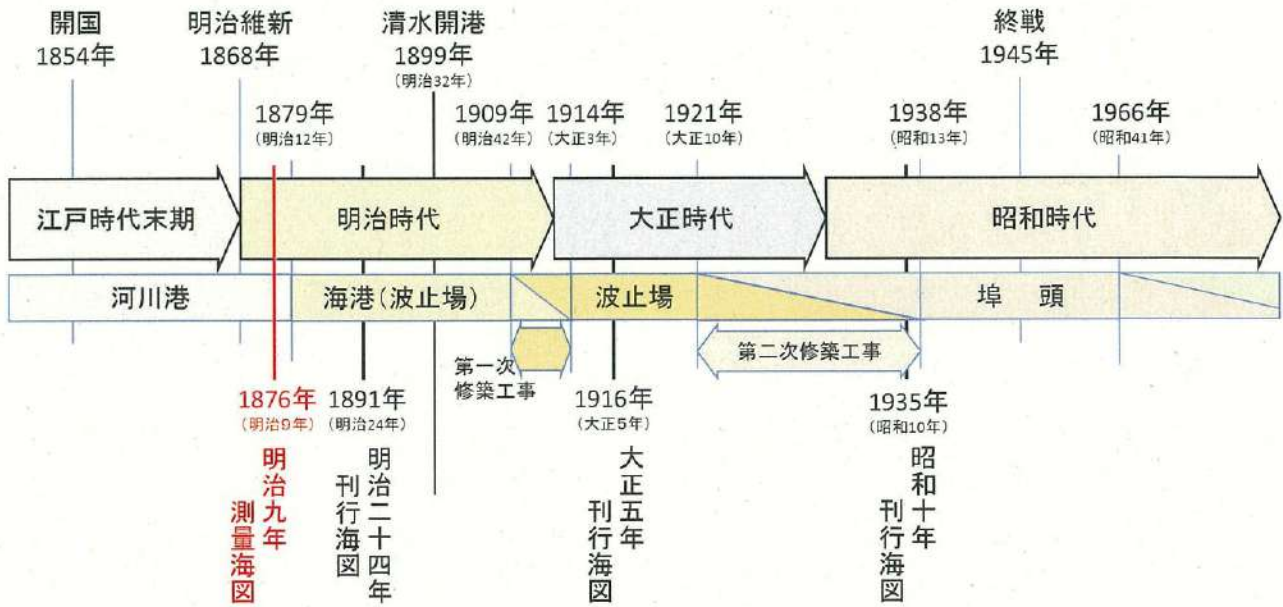
海の地図



「日本湊尽くし、駿州清水湊・広重画」とされた幕末の清水港



本日お話しする時代



河川港時代 明治9年



明治9年(1876年)に実施した測量に基づき
刊行された清水港の海図です

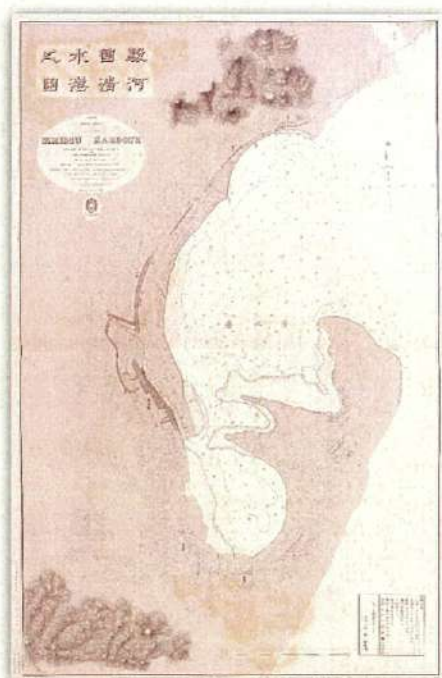
当時の清水港の中心部を見てみましょう



明治9年(1876年)に実施した測量に基づき
刊行された清水港の海図です



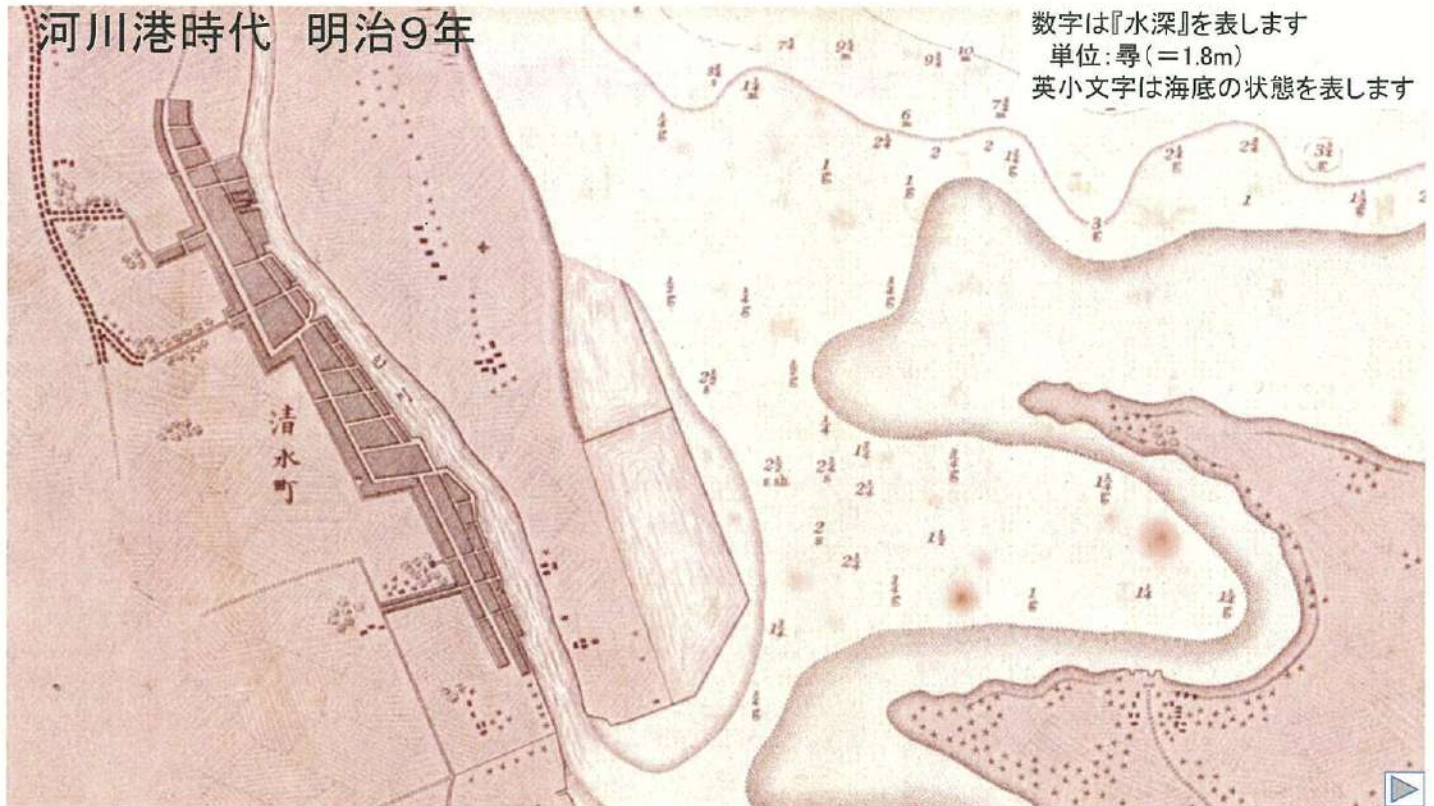
当時の清水港の中心部を見てみましょう
「清水湊」は巴川の右岸(西側)にあり
まだ橋が架けられていません



清水湊中心部を更に拡大してみましょう

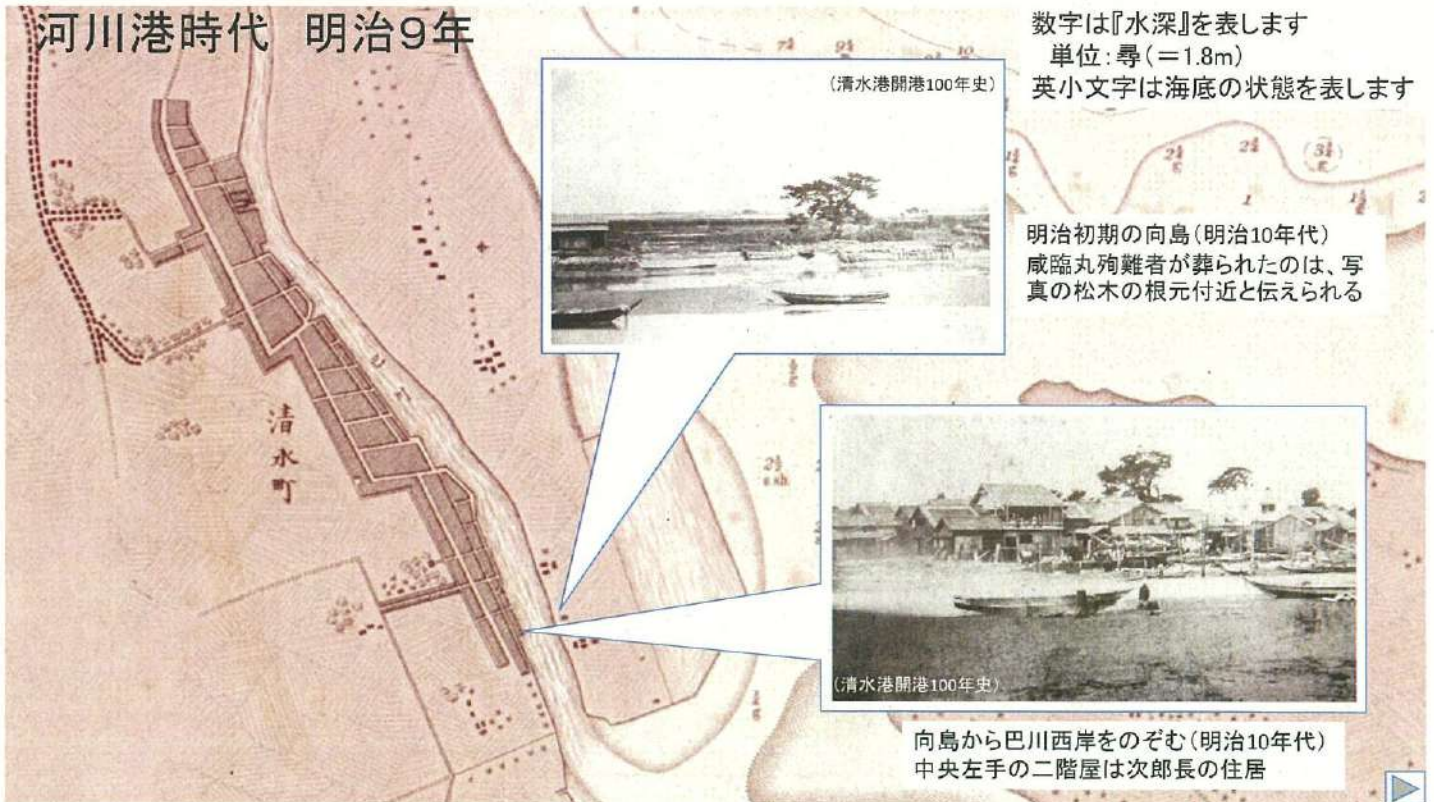
河川港時代 明治9年

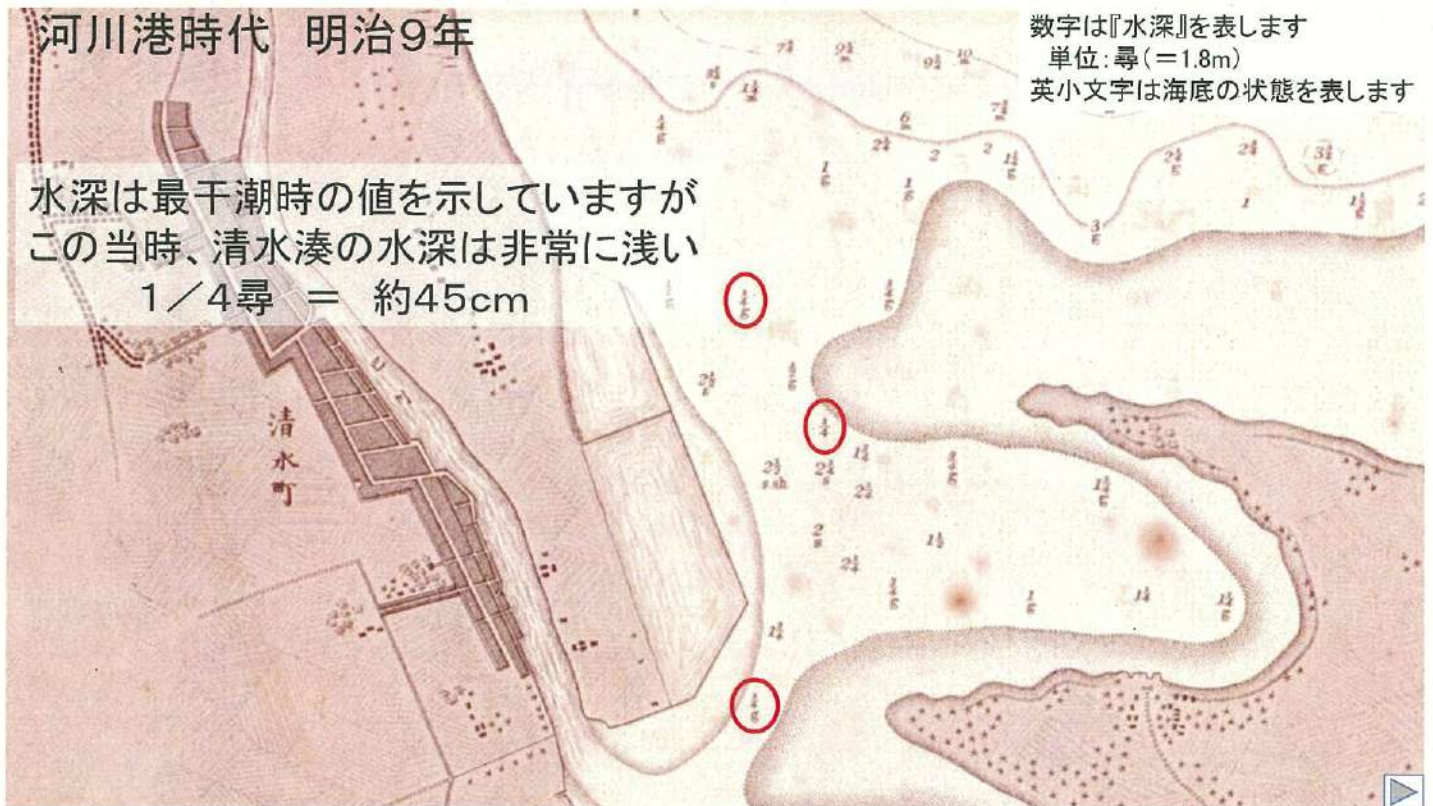
数字は『水深』を表します
 単位: 尋(=1.8m)
 英小文字は海底の状態を表します



河川港時代 明治9年

数字は『水深』を表します
 単位: 尋(=1.8m)
 英小文字は海底の状態を表します





河川港時代 明治9年

JCG 海上保安庁



水深は最干潮時の値を示していますが
この当時、清水湊の水深は非常に浅い
 $1/4$ 尋 = 約45cm

測量中記	北緯三十五度零分二十五秒
東經百三十八度三十分三秒四	羅針差三度五十一分西
潮候時五時四十分	干満差五尺
浮浪用尋每六尺	實形一萬二千五百五十一分ノ一
底質 砂 泥 礫 油 沙 盤	大日本明治九年八月
海軍大佐 柳 樹悦 測	

干満差が5尺(1尺=30cm)とあることから
満潮時でも水深が約2m程度しかありませんでした



水深50cm～2mで、どんな船が入港できたのか



水深50cm～2mで、どんな船が入港できたのか



弁財船(弁才船)

帆を下ろし停泊する弁財船を艦側から撮影したもので、舳先にジブ状の三角帆らしきものが写っている。明治時代前半の最末期の弁財船の写真

江戸時代の輸送船である弁財船は千石船とも呼ばれる。

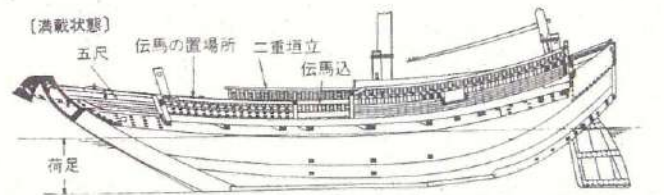
千石積みとは現在では積載量150トンの船となるが、実際には就航する航路の距離により100～2,000石級まで大小あった。

(「弁財船と清水湊」パンフレットより)





水深50cm～2mで、どんな船が入港できたのか

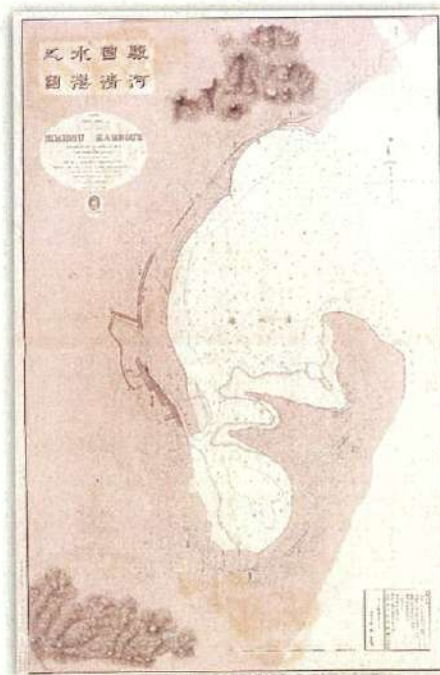


(「和船Ⅰ」 石井謙治著 より)

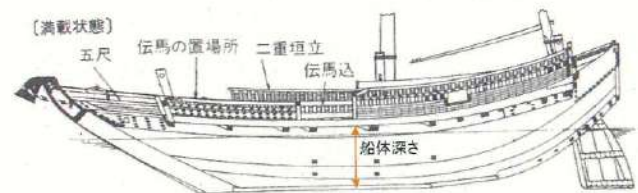
荷足(満載喫水)

200石積(30t)	4.7尺(142cm)
500石積(75t)	6.8尺(206cm)
700石積(95t)	8.0尺(242cm)
1000石積(150t)	9.3尺(282cm)

(18世紀後期)



水深50cm～2mで、どんな船が入港できたのか



(「和船Ⅰ」 石井謙治著 より)

荷足(満載喫水)

200石積(30t)	4.7尺(142cm)
500石積(75t)	6.8尺(206cm)
700石積(95t)	8.0尺(242cm)
1000石積(150t)	9.3尺(282cm)

(18世紀後期)

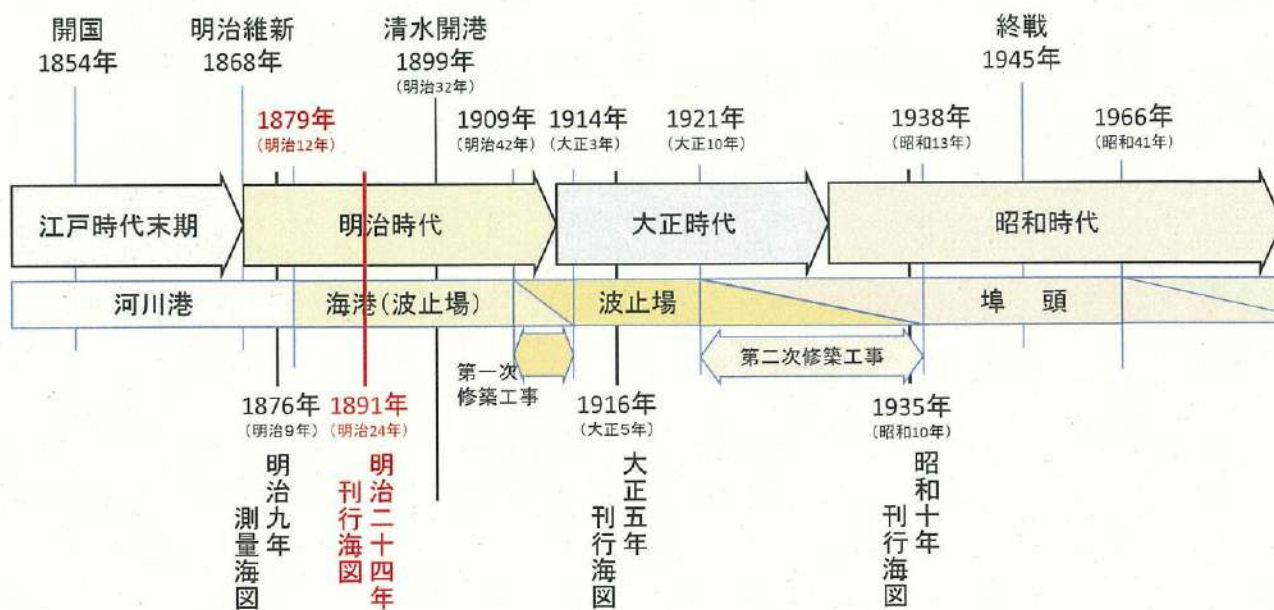
船体深さ

100石積(15t)	3.8尺(115cm)
300石積(45t)	5.6尺(170cm)
500石積(75t)	6.8尺(206cm)
700石積(90t)	8.1尺(245cm)
1000石積(150t)	9.5尺(288cm)

(19世紀初期)



本日お話しする時代



海港(波止場)時代 明治24年

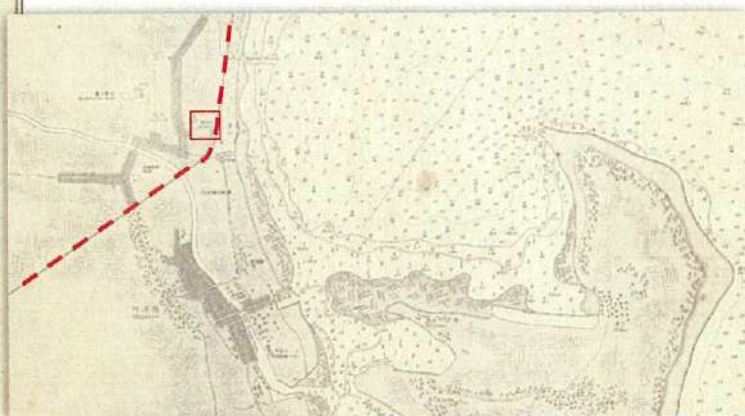


開港8年前の清水港です

再び港の中心部を見てみましょう



開港8年前の清水港です



明治22年に全通した東海道本線
本線上に停車場(江尻駅)が描かれています。

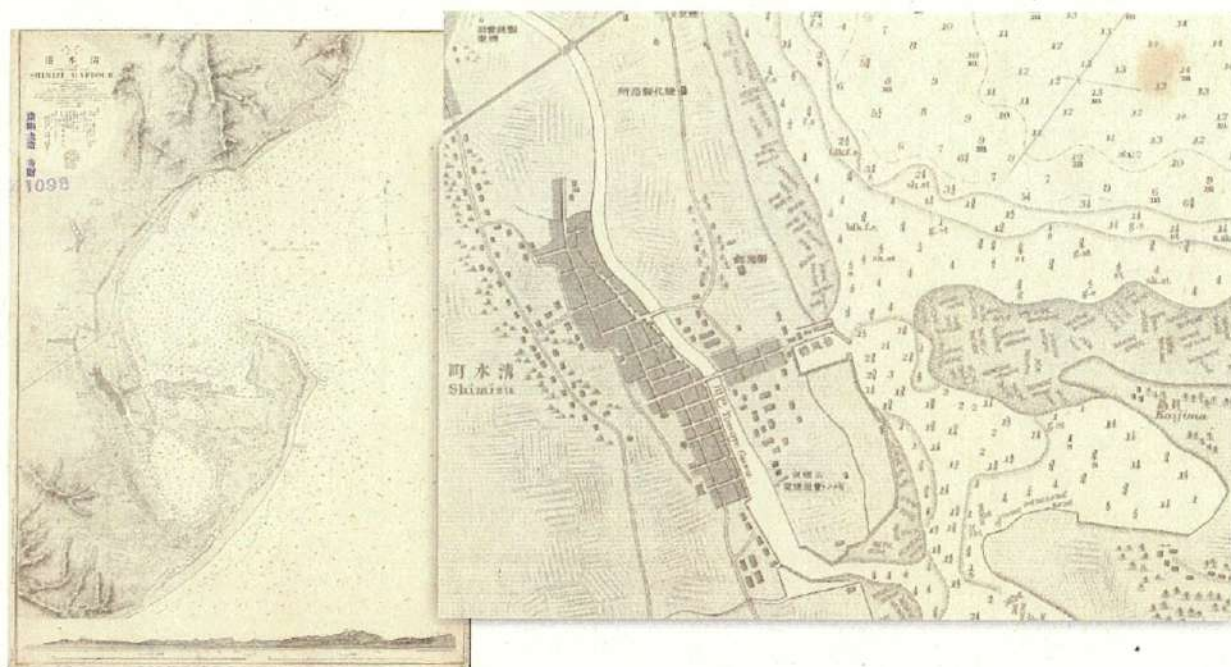


開港8年前の清水港です



明治11年に築造した波止場
明治12年に架設された港橋
明治18年に架設された富士見橋
が描かれています。





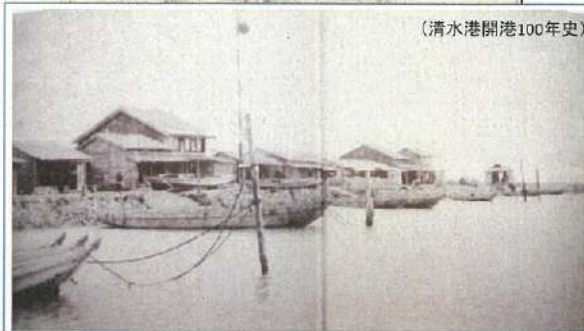
開港8年前の清水港です



波止場の外側の水深は最浅1尋に満たない状態でしたが外海に接し、沖に停泊する船舶から短時間に搬出入できる波止場は、港としての機能性を向上させています



開港8年前の清水港です



明治20年代 開港前夜の清水港
中央左手の二階建ての家が次郎長の住居「末広」



町と港を結ぶ港橋

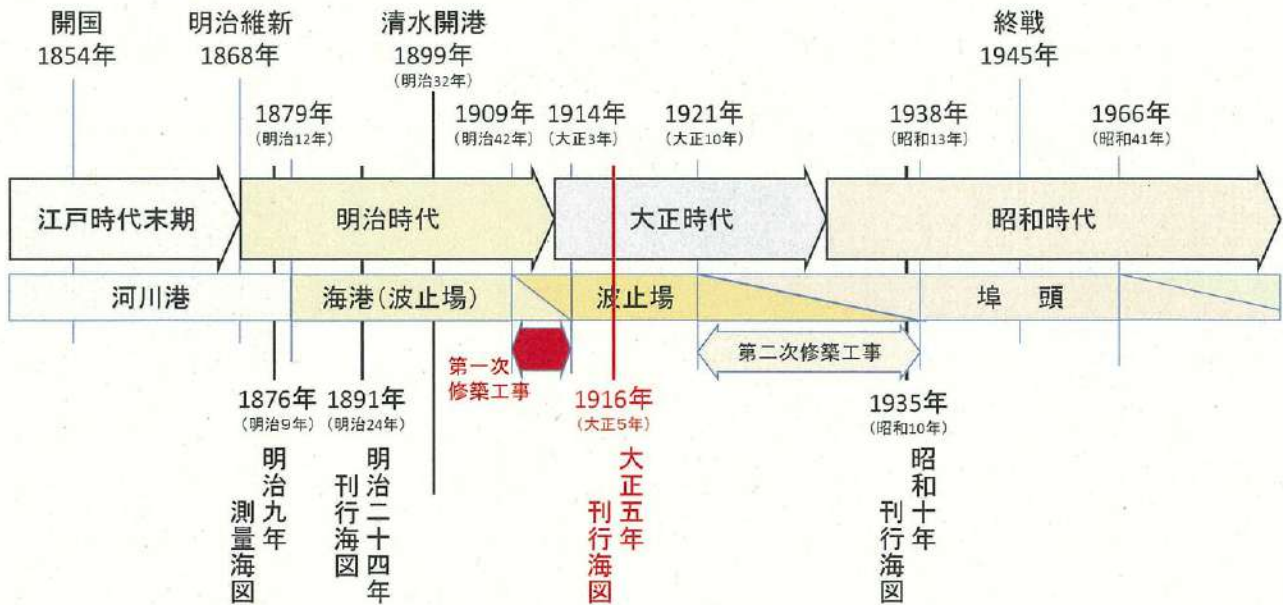


開港8年前の清水港です

次郎長堤
晩年の次郎長が作ったとされる堤
今では埋立てられて頭だけが少し残っています。
車が止まっているところは、再開港前は海
波止場と呼ばれ、清水次郎長の船宿末廣もありました
(2019年3月22日16:50 清水港開港120周年記念事業Facebook)



本日お話しする時代

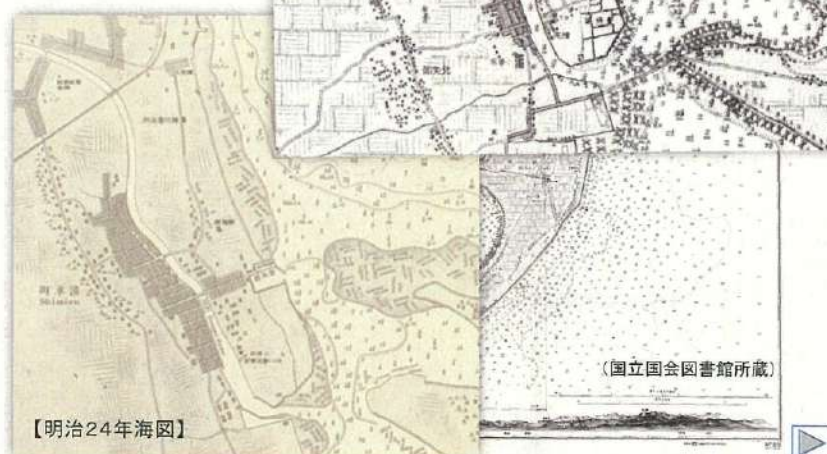


波止場時代 大正5年



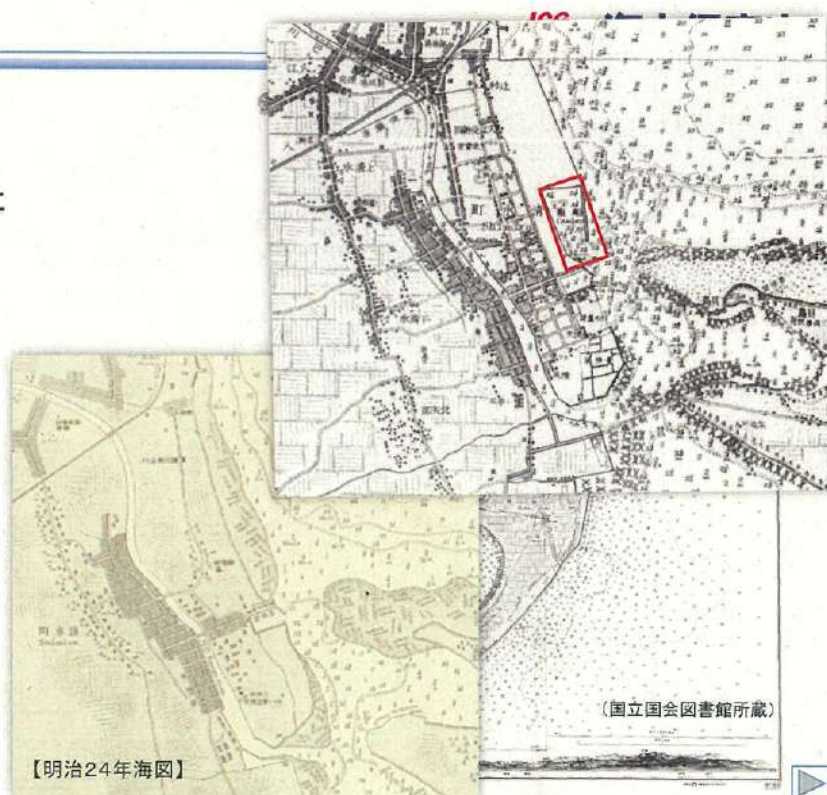
波止場時代 大正5年

明治42年から大正2年まで行われた
第一次清水港修築工事により
港の機能は大きく向上しました



波止場時代 大正5年

明治42年から大正2年まで行われた
第一次清水港修築工事により
港の機能は大きく向上しました
波止場の北側には新たな船溜りが



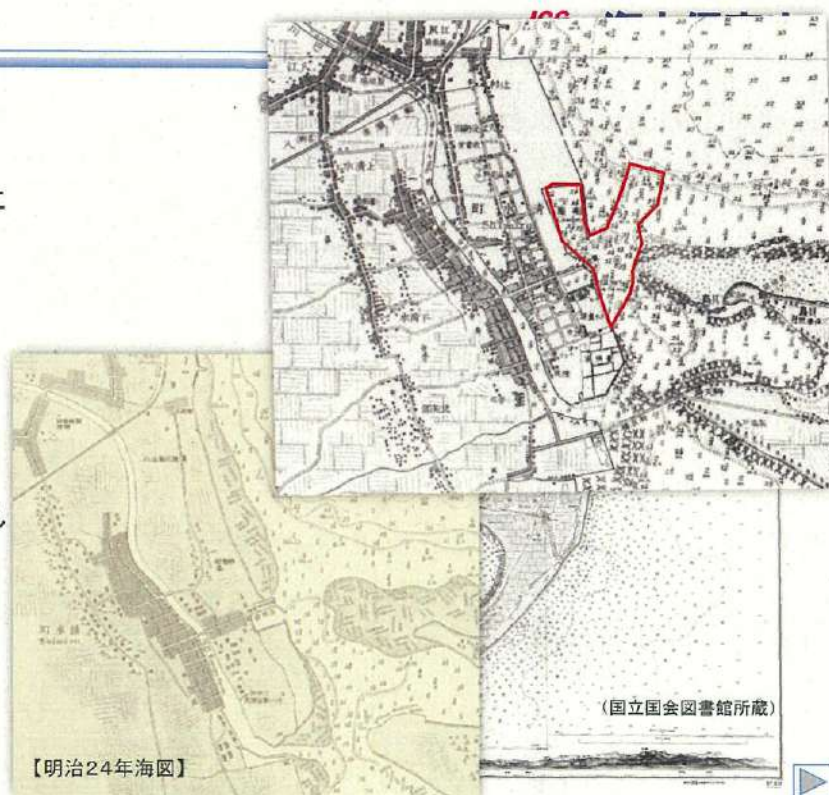
波止場時代 大正5年

明治42年から大正2年まで行われた
第一次清水港修築工事により
港の機能は大きく向上しました
波止場の北側には新たな船溜りが
島崎海岸には広大な埋立地が完成

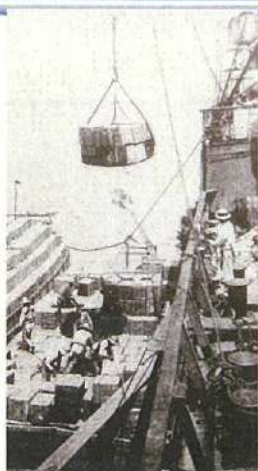


波止場時代 大正5年

明治42年から大正2年まで行われた
第一次清水港修築工事により
港の機能は大きく向上しました
波止場の北側には新たな船溜りが
島崎海岸には広大な埋立地が完成
港内の水深も2メートル以上確保され
舥(はしけ)や漁船も安心して
出入り出来るようになりました



波止場時代 大正5年



清水港
開港100年史



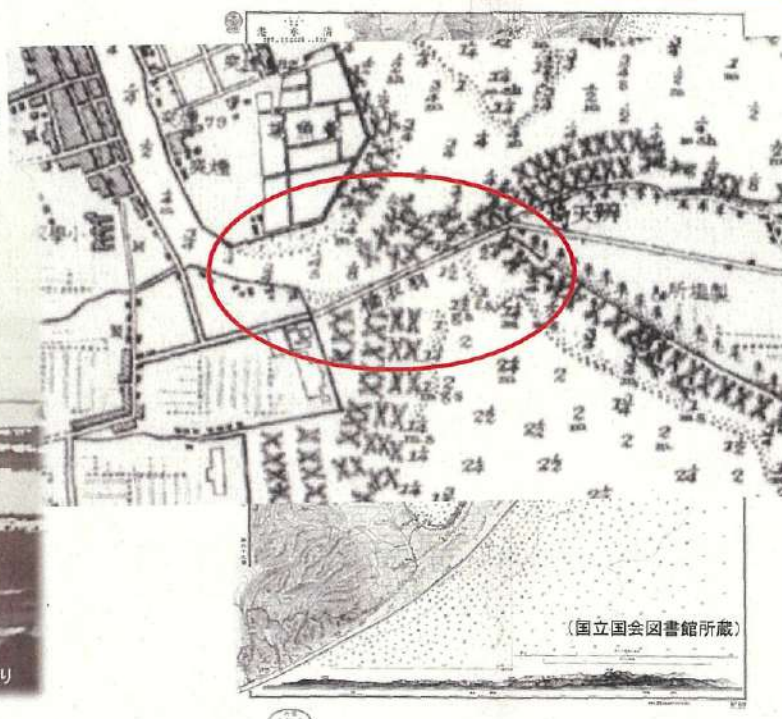
波止場時代 大正5年

JCG 海上保安庁

巴川の河口と三保半島の弁天崎との間に『羽衣橋』が描かれています



巴川の河口と三保半島の弁天崎との間に『羽衣橋』が描かれています



巴川の河口と三保半島の弁天崎との間に『羽衣橋』が描かれています

明治43年に完成した羽衣橋
全長518メートル、幅3.6メートルの
木造橋です



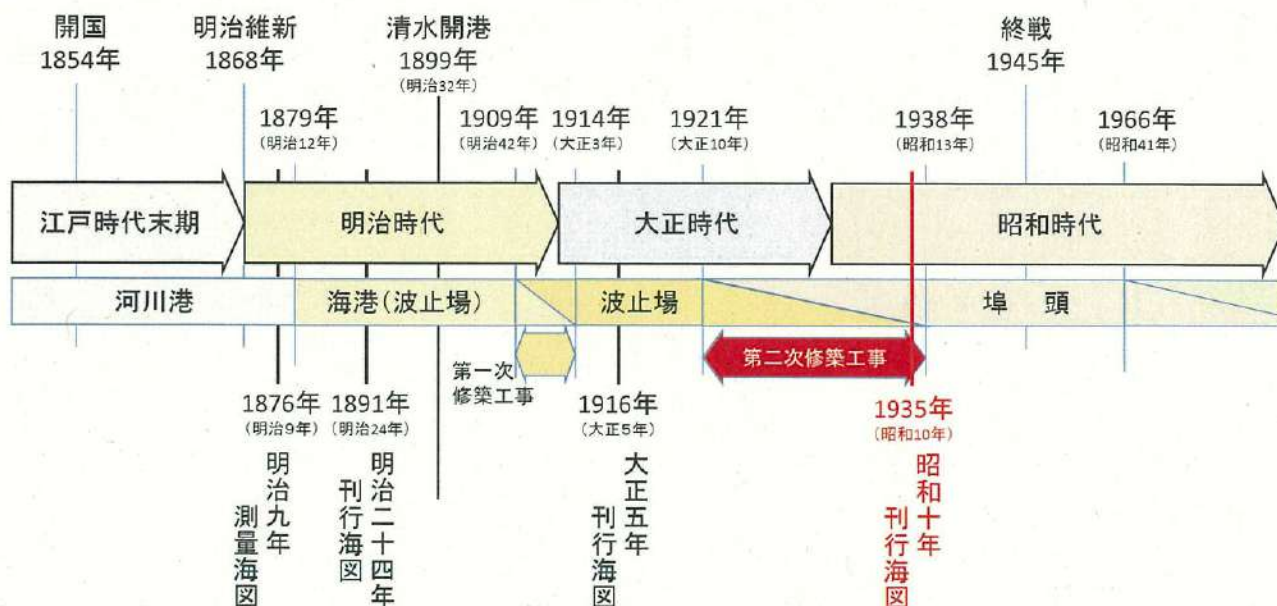
大正年間における清水港の貿易は
増減を繰り返しながらも大きく増えていきます

外国との貿易が進むにつれ
大型船が直接横付けできる埠頭を求める声が高まり
大正8年清水港周辺の1市4町4村からなる
「清水港期成同盟」が結成
国に対する猛烈な陳情が繰り返えされ

大正10年より
清水港の第二次修築工事が行われることとなりました

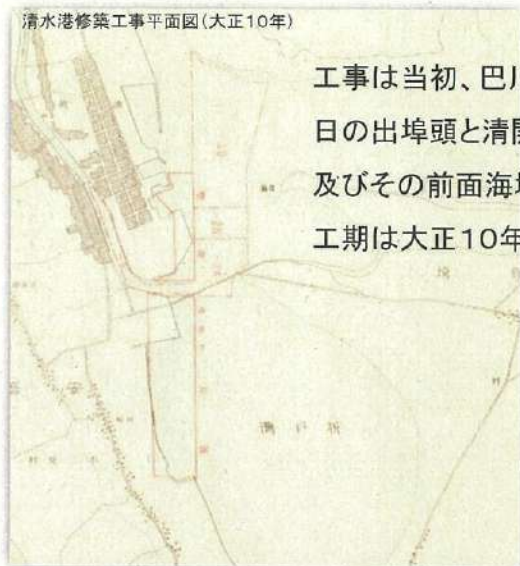


本日お話しする時代



第二次修築工事(波止場から埠頭へ)

清水港修築工事平面図(大正10年)



工事は当初、巴川河口南北の
日の出埠頭と清開・不二見埠頭の建設
及びその前面海域の浚渫の予定で
工期は大正10年から15年までの計画でした

基石の沈下



清水港開港100年史より

空から見た巴川と工事中の埠頭

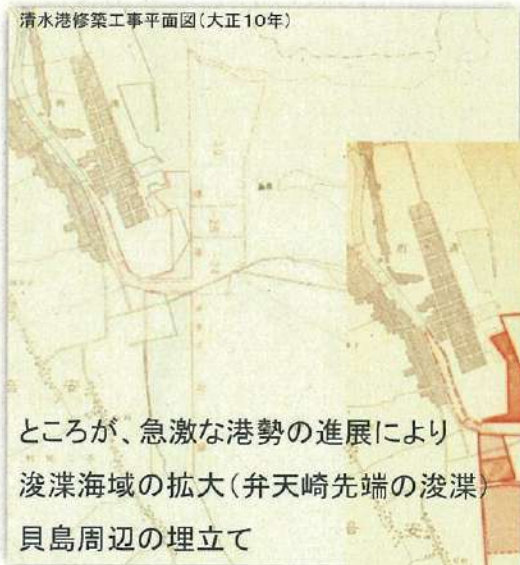


清水港修築工事誌より



第二次修築工事(波止場から埠頭へ)

清水港修築工事平面図(大正10年)



ところが、急激な港勢の進展により
浚渫海域の拡大(弁天崎先端の浚渫)
貝島周辺の埋立て
などの追加計画が立てられます



清水港修築工事平面図(大正14年)

基石の沈下



清水港開港100年史より

空から見た巴川と工事中の埠頭



清水港修築工事誌より



第二次修築工事(波止場から埠頭へ)

清水港修築工事平面図(大正10年)

清水港修築工事平面図(昭和4年)

さらに
日の出ふ頭の延長や
貝島崎に防波堤の建設
折戸湾の浚渫
などの計画が追加されます

清水港修築工事平面図(大正14年)



第二次修築工事(波止場から埠頭へ)

この後、
昭和5年 北伊豆地震
昭和10年 大谷地震
の二度の地震により甚大な被害を受け
震災復旧工事等により工期が何度も延期されます

大正10年から始まった
清水港第二次修築工事は
工事開始から17年の歳月をかけ
昭和13年までに工事が完了しました

写真:清水港修築工事誌



埠頭の時代へ 昭和10年

昭和10年に刊行された海図ですが、小改正等の作業が加えられ、終戦後の昭和22年まで使用された海図



埠頭の時代へ 昭和10年

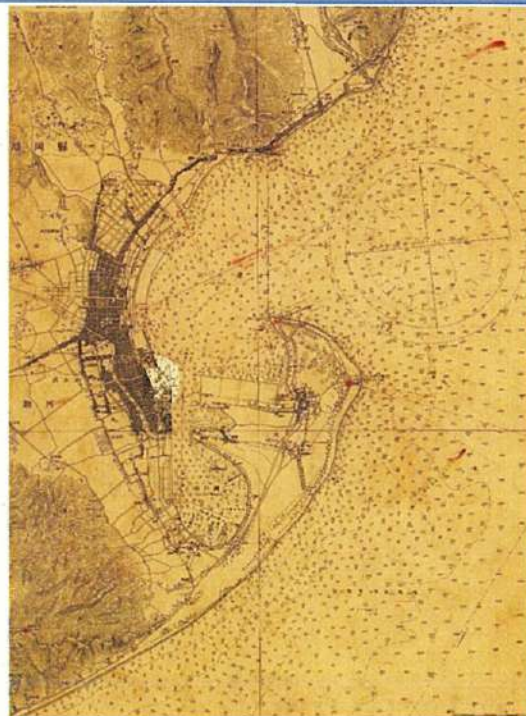
昭和10年に刊行された海図ですが、小改正等の作業が加えられ、終戦後の昭和22年まで使用された海図

清水港開港100年史より

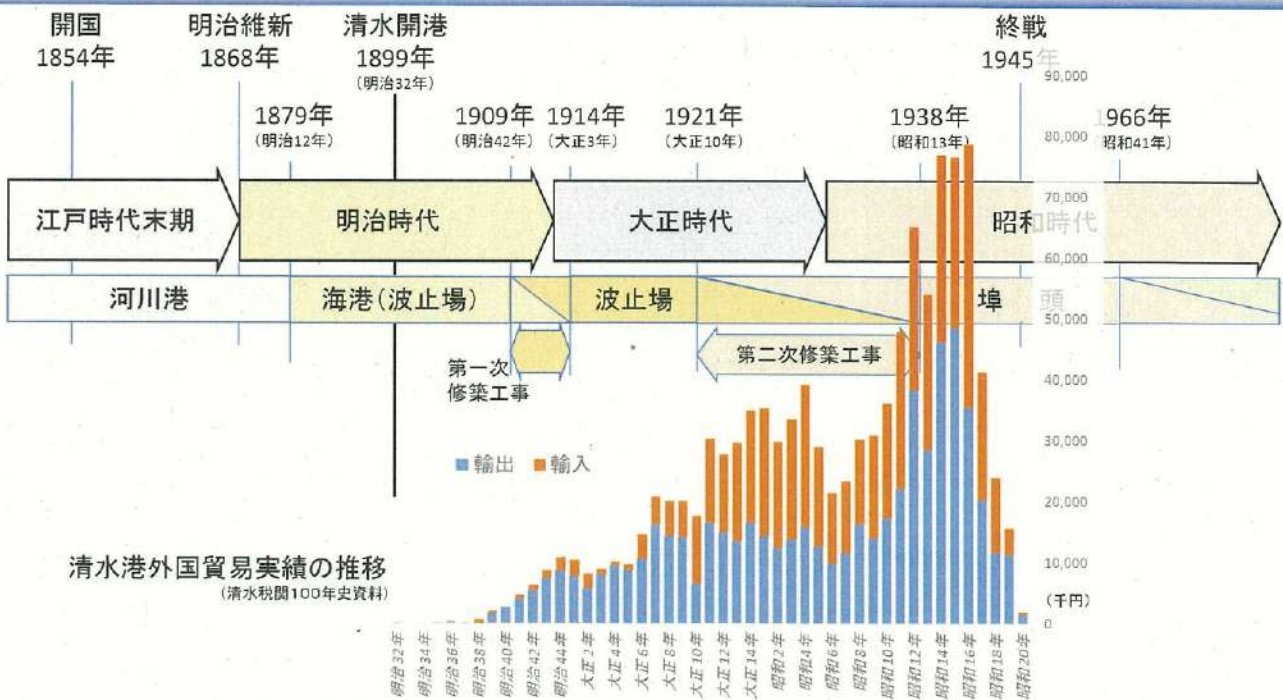
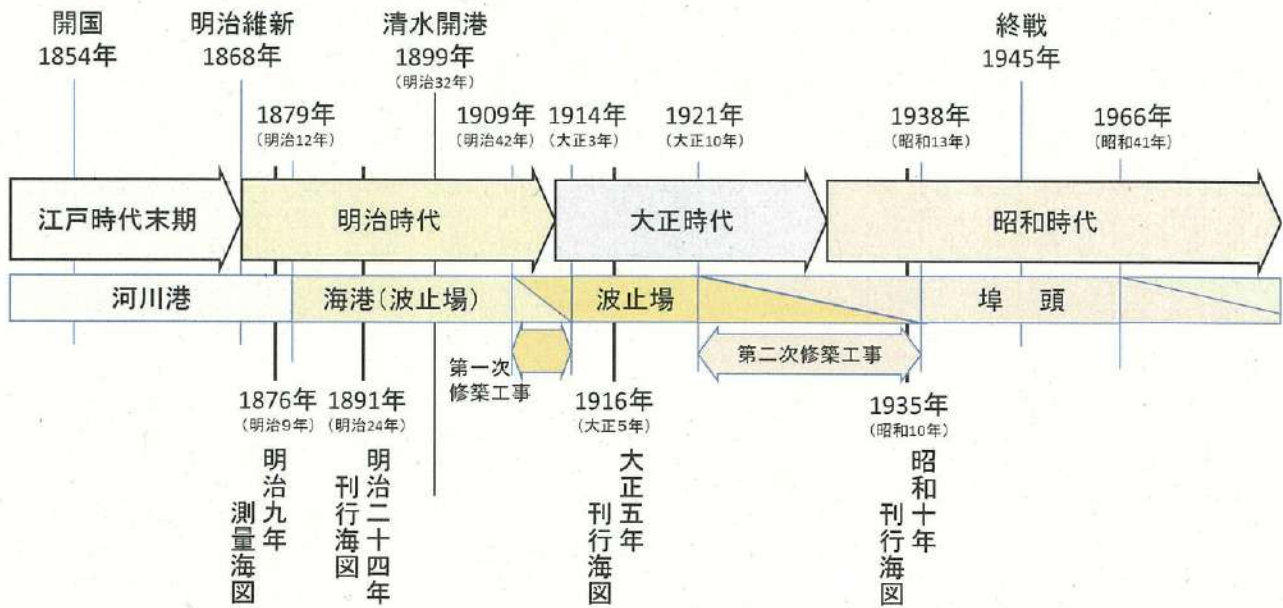


昭和4年5月16日 最初の接岸荷役(丙岸壁)
(現日の出埠頭の最も巴川寄りの岸壁)

乙岸壁(現日の出埠頭中央部)の完成は昭和7年
甲岸壁(現日の出埠頭最北側)の完成は昭和13年



本日お話しする時代



開港前後の清水港

～河川港から海港へ
波止場から埠頭へ～

終

 **海上保安庁**
JAPAN COAST GUARD

令和2年2月1日

